HIVの間違った知識

福山医療センター　薬剤部

HIVの間違った知識について

× せきやくしゃみで感染する
× 感染力が強い
× HIVに感染すると寿命は平均２年
× 治療をすれば完治する
× たくさんの薬を飲む必要がある
× 男性同性愛者のみの疾患である

せきやくしゃみで感染する×

感染の危険性があります

性行為による感染

血液による感染

母子感染

感染の心配はありません

咳・くしゃみ

蚊による感染

プール

汗

お風呂

トイレ

などなど

HIVは**血液、体液**に含まれるため、
性行為・血液による感染・母子感染には注意が必要。
しかし、せきやくしゃみなどについては、HIVは含まれるが、
ごく微量なので感染の心配はない。

感染力が強い×

感染力の強さ

HBV：HCV ：HIV ≒ 100：10：1

（B型肝炎ウイルス）（C型肝炎ウイルス）

HBVはHIVの約100倍感染力が強い

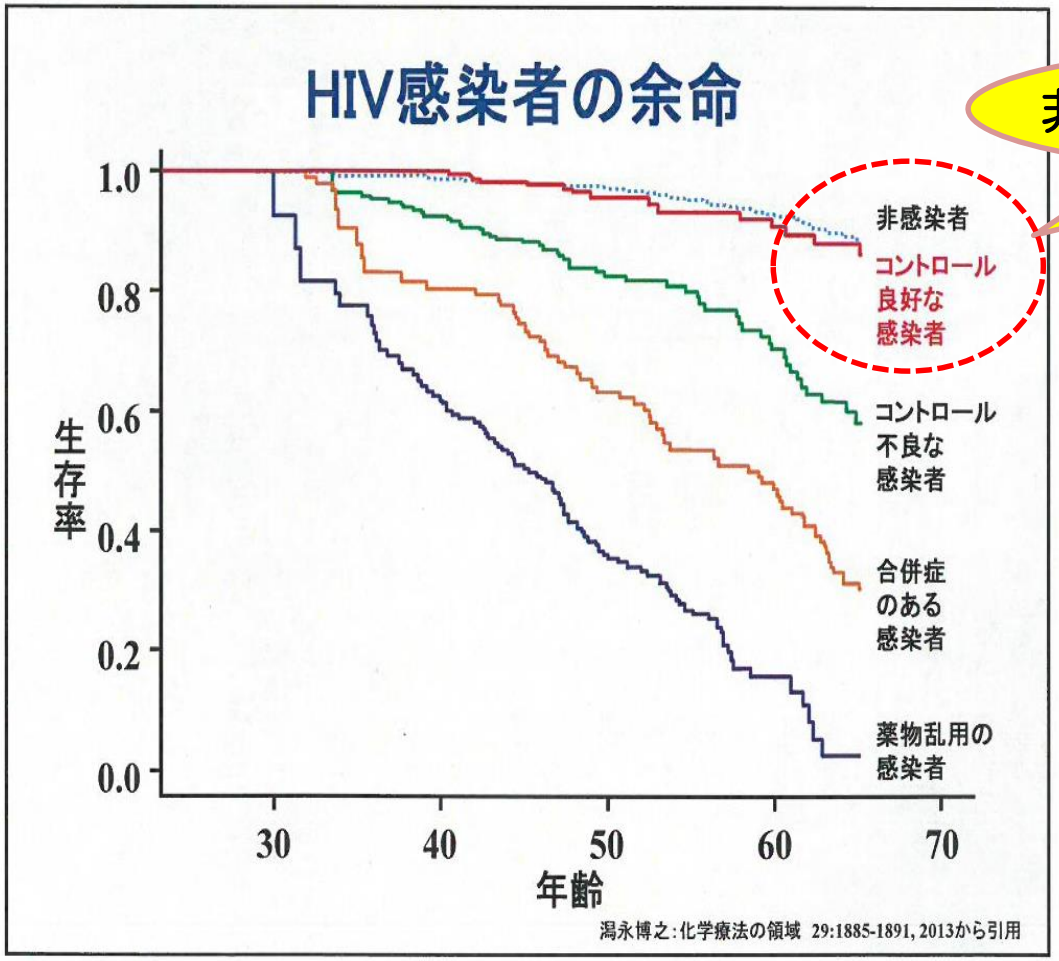
未治療のHIV感染者でも低い！

HIVの感染のリスクは極めて低く、過剰に心配する必要はない。
HIV感染症患者の対応に特別な感染対策は必要なく、
基本である標準予防策（スタンダードプリコーション）※1で対応できる。

※1 感染対策の基本として、すべての血液、体液、分泌物（喀痰等）、嘔吐物、 排泄物、創傷皮膚、粘膜等は感染源となり、感染する危険性があるものとして取り扱うという考え方。

出典：日本環境感染学
www.kankyokansen.org/other/edu_pdf/3-3_02.pdf

HIVに感染すると寿命は平均２年×



非感染者と余命は変わらない！

一昔前のイメージ

死の病・感染したら死ぬ

現在

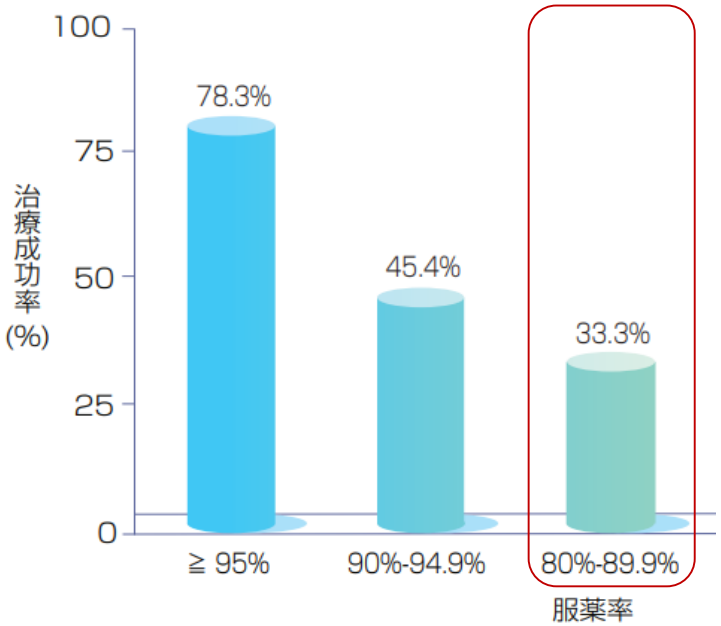
薬でコントロールできる
慢性疾患

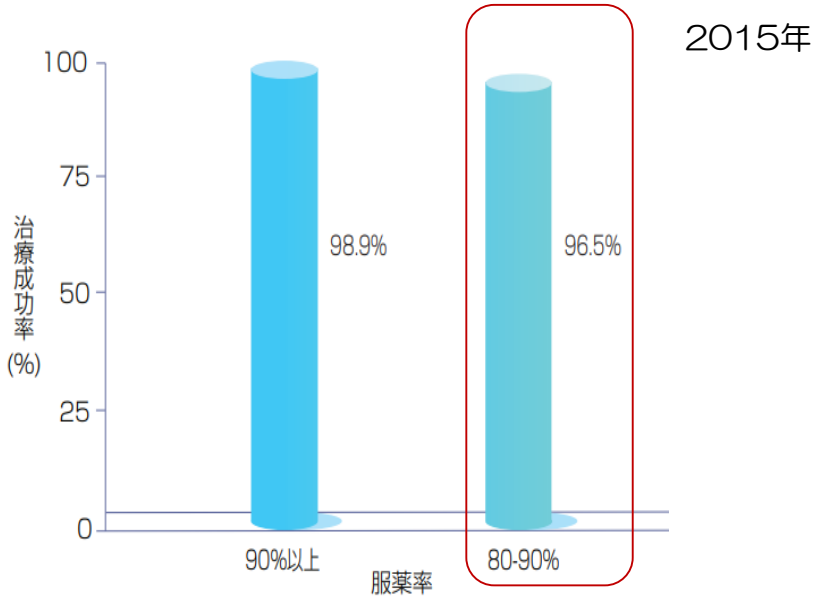
抗HIV薬の登場、進歩によりHIV感染症患者の生命予後は大きく改善され、
薬を正しく飲み続ければ非感染者と変わらない生活・余命を送ることができる。
ただし、治療をしないとAIDS発症から死亡に至るまでは約２年とされている。

治療をすれば完治する×

現在の抗HIV薬では、完治はしない。

病態の進行を抑えるために毎日抗HIV薬を服用する必要がある。





服薬率80-90%では
治療成功率33%…

服薬率80-90%では
治療成功率96.5%に改善

抗HIV薬の進歩により
治療成功率は改善している。

出典：抗HIVガイドライン2023(P27)

たくさんの薬を飲む必要がある×

1987年　世界で初の抗HIV薬（AZT：ジドブジン）が登場。
１剤（２カプセル）を１日６回4時間毎に服用する単剤治療が開始
しかし、単剤での治療はHIVの耐性化を引き起こし失敗

1997年（多剤併用療法開始）
１日５回内服：計20錠

朝食後（7時）

朝食間（9時）

昼食後（12時）

昼食間（14時）

夕食後（19時）

夕食間（21時）

結石予防のため
水1.5L/日が必要

＋

（1.5L/日）

たくさんの薬を飲む必要がある×

1日2回
の服用に

1999年：12錠

1日1回
の服用に

2004年：4錠

1日1回2錠
の服用でOK

2008年

1日1回1錠
の時代に！

2013年

サイズも
小さく！！

2019年

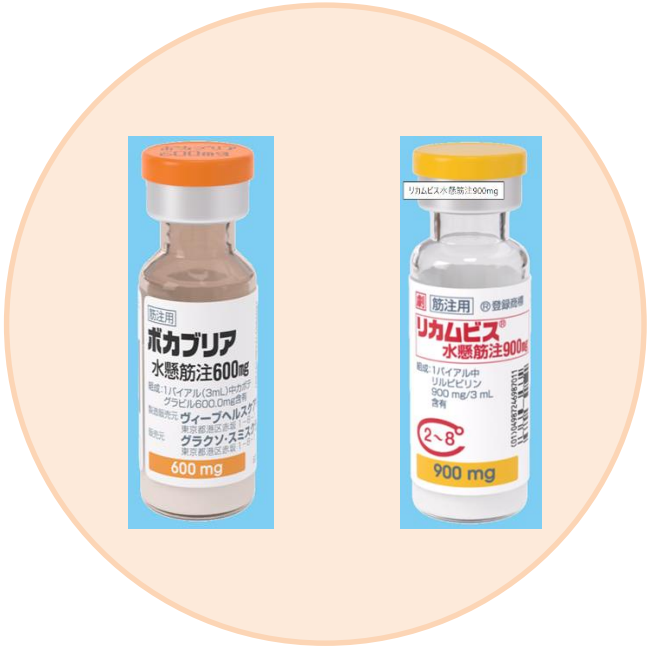
2成分
の時代に

2020年

たくさんの薬を飲む必要がある×

2022年：注射剤の登場

1カ月に1回製剤

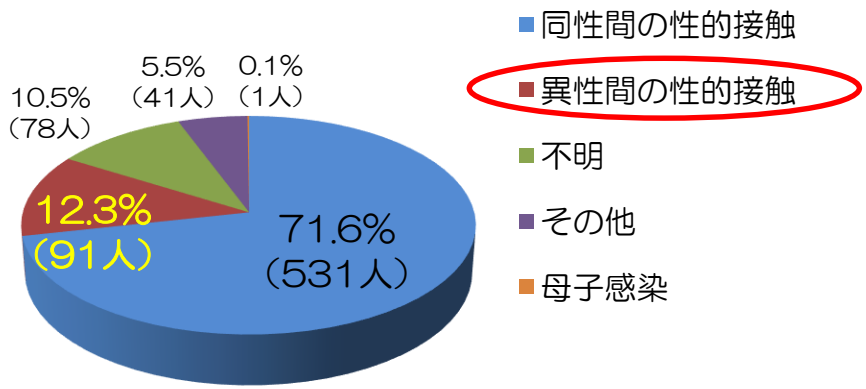


2カ月に1回製剤

1回2種類（臀部に注射）

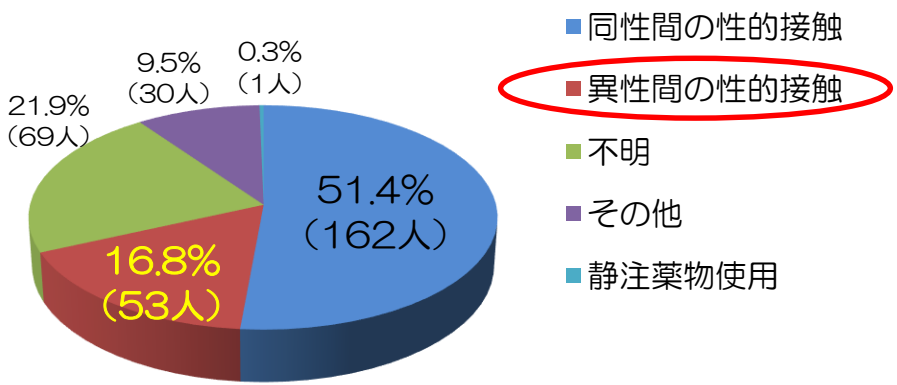
男性同性愛者のみの疾患である×

日本での
新規HIV感染症患者の感染経路内訳



2021年

日本での
新規AIDS患者の感染経路別内訳



2021年

HVは男性同性間の性的接触で感染するという認識が多いが、
異性間の性的接触も15%近くを占める
→異性間でも【セーファーセックス】が重要！！

出典：令和3年度エイズ発生動向（厚生労働省エイズ動向委員会）